

I 実践

1 研究主題

互いに思いやり助け合う児童の育成を目指した人権教育の実践

(1) 主題設定の理由

本校は、『たしかな学力，たすけあう心，たくましい体』をもった調和のとれた児童の育成」を教育目標として掲げている。それを受けて、人権教育では、「人とのつながりの中で、人権感覚を養い、社会や生活を見つめながら、主体的に行動することができる児童を育成する」ことを目標にしている。本校児童の多くは、明るく素直であり、思いやりの心をもって生活することができている。しかし、自己中心的な行動をとったり、友達とうまく関わるができずにトラブルを起こしたりする児童も見られる。

そこで、体験的な交流を通して、相手の立場を考え、思いやりや助け合いの精神をもって行動することを身に付けさせるため、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 豊かな体験活動の展開

- ・異学年交流 ・地域社会との交流 ・福祉体験

イ 人権教育への啓発活動

- ・人権週間 ・人権メッセージ

ウ 人権を尊重する環境作り

- ・人権コーナー ・道徳コーナー

【縦割り班活動の様子】



2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の実践

ア あいさつ運動

事務局委員会の児童が中心となり、毎朝あいさつ運動を行っている。11月初旬には、各学年によるあいさつ運動の取り組みを行った。また、保護者や地域の方々、駒王中学校の生徒もあいさつ運動に協力してくれた。

イ 異学年集団

1年生から6年生の縦割り集団を編成し、6年生がリーダーとなって楽しく遊ぶ活動を行った。活動は月に1回、水曜日のロング昼休み（宮田っ子タイム）に行っている。

ウ 福祉体験・いのちの教育（第4学年）

4年生は、様々な人の立場に目を向けさせ、共生を図る資質や能力を身に付けられるように総合的な学習の時間のテーマを「人にやさしい宮田を考えよう」とした。今年は、7月に高齢者施設「ひふみ館」を訪問し、施設を見学したり、入所者と一緒に歌や折り紙を楽しんだりした。また、10月にはいのちの教育を行った。赤ちゃんが誕生するまでの様子や思春期についての講話が行われ、児童一人一人が命の大切さや男女の成長に違いがあること、成長には個人差がある事を知り、体や心の変化について理解することができ、自分も友達も大切にしようという気持ちが芽生えてきた。

エ 地域社会との交流

9月に行われた宮田コミュニティ推進会主催の敬老会に、5年生の児童が参加し、花笠音頭を披露した。11月にもふれあいまつりや防災訓練などがあり、ふれあいまつりでは、3・4年生が「ソーラン節」を披露し、防災訓練では様々な防災体験活動も行った。

【ひふみ館訪問の様子】



【いのちの教育】



(2) 人権教育への啓発活動

ア 人権週間の実施

9月の第1週を人権週間とし、全学級で人権に関する授業を行った。(道徳、学活)

低学年は「話し方」や「友達のよさ」について、中高学年は「差別」や「いじめ」に関する内容を行った。

イ 人権メッセージ

人権に関する授業を行った後、全員に用紙を配布し、人権に関するメッセージを書いた。「友達について」「いじめについて」「困っている人がいたらどうするか」など様々な内容のメッセージを書くことができた。

3 成果

- ・縦割り班活動を継続して行うことで、高学年の児童が低学年の児童にやさしく接することができるようになった。普段の休み時間にも学年を越えて遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・地域との交流や福祉体験などを通して、思いやりや助け合いの心が育ち、相手の立場に立って行動することができるようになった。
- ・人権週間を設けることで、発達段階に応じて人権意識を高めることができた。今年度は授業の展開例や参考となる資料などを各学級に配り、活用してもらった。人権メッセージの各学級の代表3点を昇降口の人権コーナーに掲示した。

II 今後の課題

- ・思いやりの心は育ってきているが、何気ない言葉や行動で相手に嫌な思いをさせてしまうことがある。今後も、学校生活全体を通して、自己や他者を大切にする意識や判断力・実践力を育てていきたい。
- ・あいさつの声が小さい児童が多いので、引き続きあいさつ運動にも力を入れていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

【人権コーナー】



【学級の道徳コーナー】

